地域調査演習 A

2 units (selection) 2nd-year(2nd semester)

Shinichi Takahashi · Professor (by-work) / Department of Civil and Environmental Studies

Target〉 地域の本質を把握するためには，的確な視点から問題を設定し，綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である．本実習では，地域に展開する文化現象に注目し，実際の調査 (文化人類学・ 民俗学的なフィールドワーク) を通じてこれらの能力を養成することを目的としている．授業では調査計画の立案に始まり，実際のフィールドワークを行い，その結果得られたデータを整理・ 分析し，報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する． 先行研究の内容を踏まえていなければ，フィールドワークの成果は十分に上がらない．本授業では，特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し，調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する．

Outline〉 文化人類学実習

Keyword〉 ***fieldwork, cultural anthropology, folklore, fieldwork***

Relational Lecture〉 "**地域調査演習 A**"(0.5), "**地域調査法 IA**"(0.5), "**地域調査法 IIA**"(0.5)

Notice〉 地域調査法 IA(前期)・IIA(後期) では調査の理論と技法を，地域調査演習 A(前期・後期) では実践と応用を学ぶので，同時受講を前提とする．前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため，通年で受講することが望ましい．また，実習という授業の性格上，受講者数を制限することがある．本授業では，日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定 (祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など，さまざまな文化現象の中から一つを選定) し，担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく．調査対象地域と調査テーマについては，受講者と相談の上決定する．授業では，受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう．その中で，講義形式の授業では行いにくい，ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい．

Goal〉 文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し，その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる．

Schedule〉

1. 予備調査結果の報告会
2. 本調査に向けての体制作り (1) 調査体制の検討
3. 本調査に向けての体制作り (2) 調査要項の確定
4. 本調査の実施
5. 本調査のデータ整理 (1)
6. 本調査のデータ整理 (2)
7. 補足調査項目の検討
8. 補足調査の実施
9. 調査報告書の構成検討，執筆分担
10. 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (1)
11. 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (2)
12. 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (3)
13. 研究成果報告会に向けての準備作業
14. 研究成果報告会
15. 報告書の発送作業
16. 1 年の調査経験をふまえての討論会

Evaluation Criteria〉 授業への取り組み状況，授業中に課せられるレポートや報告の内容，調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う．

Re-evaluation〉 行わない．

Textbook〉 教科書は使用しない．授業中に随時プリントを配布する．

Reference〉

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる．
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社，1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房，1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣，1997 年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究室報告』1~ 9，同研究室，1996 年 ~ 2009 年

Contents〉 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218819

Contact〉

⇒ Takahashi (+81-88-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) Mail (Office Hour: (後期)水曜日12時~ 13時)

Note〉 本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 25 年度開講予定)